

「かなけ水」かな？ 油汚染かな？

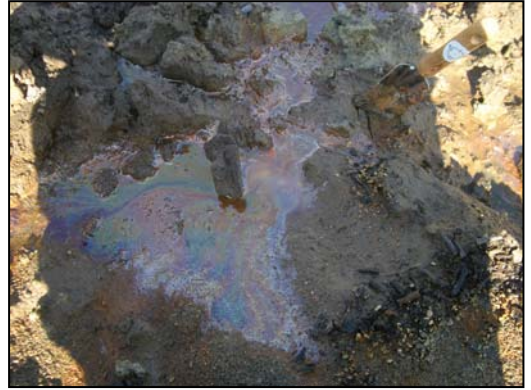
● 春先の田圃や圃場整備工事中に、右の写真のような油膜と思えるきらきらと光る膜を見かけませんか？

「これ油汚染？ いやあ、困った。」

「土壌分析をしなきゃ!？」

と慌てる前にちょっと待って！

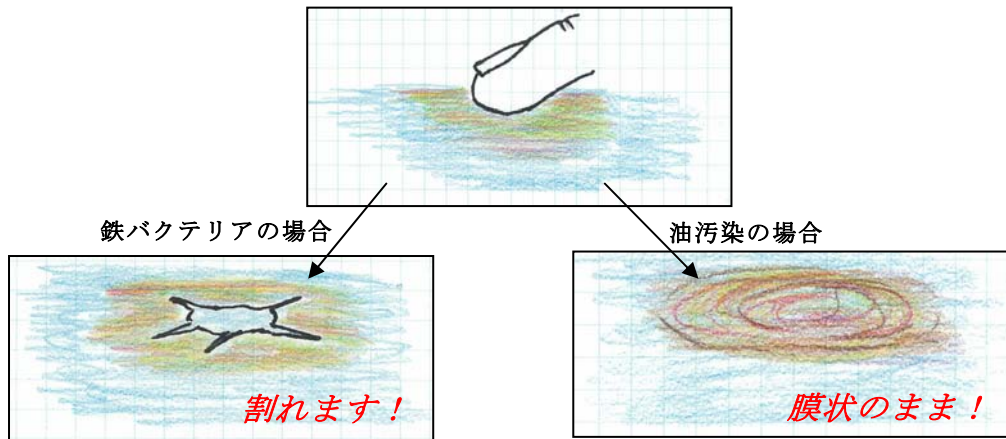
右の写真は油汚染ではありません。鉄の酸化皮膜です。このような皮膜は、鉄細菌が作る「かなけ水」に時々見られます。



● 鉄細菌は、 Fe^{2+} （二価鉄）を Fe^{3+} （三価鉄）に酸化する際に獲得されるエネルギーを用いて、炭酸同化を行う化学合成栄養細菌です。酸化時に土壌や水を赤褐色化させたり、鉄の酸化皮膜を発生させたりします。

油汚染か鉄細菌による皮膜かを簡単に判断するには、次の方法があります。

1. 臭いをかぐ（油臭がするか否かを確認します）
2. 見る（皮膜があるか否かを確認します）
3. 触ってみる（下図のように違いは明快です）



● 平成18年4月1日に「油汚染対策ガイドライン(案)」が発行されました。このガイドラインは、「土壌や井戸水などで発見した油臭や皮膜が、油汚染であるかを確認することを目的」としています。このガイドラインでは、油汚染の可能性があれば、調査をし、対策を講じることを薦めています。油汚染の有無の判定や汚染の基準値は示されていませんが、油汚染に関する状況把握調査と対策が示されています。本ガイドライン(案)は、[「http://www.env.go.jp/info/iken/h180217a/c-2.pdf」](http://www.env.go.jp/info/iken/h180217a/c-2.pdf)からダウンロードできます。

● 夏草や立よる水は金気水（小林一茶）。・・・あまり歓迎されていないようです。